

## 『産業カウンセラー等の実態調査』詳報：(その8)

### 当協会認定資格を取得している人のうち、 「資格登録」をしている人（会員）は…？

今回は、質問25で、当協会発行の「資格登録証」をお持ちかどうか伺いましたが、「資格登録」\*をしている人としていない人ではどのような違いがあるか、実態を比較していきます。

質問25で『資格登録証を持っている』と答えた人（以下、「会員」と略す）は、11,027人（全回答者のうち、74.6%）でした。『まだ資格を取っていないので持っていない』と答えた人（以下、「会員（未資格）」と略す）は、434人（同、2.9%）\*\*、『資格は取っているが持っていない』と答えた人（以下、「非会員」と略す）は、3,304人（同、22.4%）でした。

\*当協会の個人会員は、2007年度から「資格登録制度」が導入されたことにより2種類になりました。当協会認定資格取得者は「資格登録会員」、それ以外の当協会認定資格の未取得者は「会員」と呼ばれています。

\*\*以下の記述には、「会員（未資格）」のデータは省いています。

#### 1. 協会認定3資格の内訳は？

まず、**取得資格**（質問1）を見ていきます。『シニア産業カウンセラー』をもっている人のうち、「会員」の割合は91.9%、『キャリア・コンサルタント』をもっている人では91.4%と、90%を超えていましたが、『産業カウンセラー』資格だけをもっている人では71.8%と、20%ほど比率は低くなっていました。

関連して質問26で「非会員」に**資格登録をしていない理由**（2つ以内選択）を聞きましたが、全体では『現在、産業カウンセリングにかかわる「活動」をしていないから』が40.1%、『資格登録料が高いから』が36.4%、『資格登録しても得られるメリットが少ないと思うから』が32.6%となっています。

「産業カウンセラー」資格取得後、他の資格を取得する割合を「会員」と「非会員」で比較してみましょう。

一般的に、最初に取得する資格は『産業カウンセラー』ですが、この資格を取得した人のうち77.2%（上記の『産業カウンセラー』資格のみの取得者に、その他の協会認定資格取得者を加えた数値です）が「会員」となりました。その後、会員になられた方のうち30.6%が『キャリア・コンサルタント』、6.0%が『シニア産業カウンセラー』

を取得しています。

それに対し、『産業カウンセラー』をとった後、「非会員」とどまった方は22.8%おり、その後『キャリア・コンサルタント』は9.1%、『シニア産業カウンセラー』は1.7%の人しか取得していません。その理由は、上記の**資格登録をしていない理由**のように「活動」をしていないため、その後の資格取得に消極的な姿勢が伺えます。

#### 2. どのような属性の人なのか？

次に、「会員」「非会員」が、どのような属性の人なのかを見てみます。

**雇用（就労）の形態**（質問23）を見てみますと、「会員」は『正社員』が48.9%、『契約社員』等の非正社員が36.6%を占め、『主婦』等で企業や団体などで働いていない人は6.5%です。それに対し、「非会員」は、それぞれ54.5%、24.8%、20.7%を占めています。

「非会員」は『正社員』、および『主婦』等で企業や団体などで働いていない人の割合が高くなっており、この2つの雇用形態では1. の**資格登録をしていない理由**で見たように「資格は取ったが活動していない」方が多いようです。

次に、企業や団体で働いている人の**職種**（質問24（4））をみてみましょう。「会員」になっている割合が高いのは、『カウンセラー』が89.4%で、

続いて『社会保険労務士、司法書士、行政書士』は84.4%、『保安職（自衛官・警察官・警備員）』は81.5%（ただし実数は61人）、『管理職』は81.2%、『技術職（SEなど）』は81.0%となっており、企業組織にかかわりがある職種が多くなっています。

逆に、「非会員」の割合が高い職種は『医師』で42.9%（ただし実数は23人）と高く、『生産労務職』は34.4%（ただし実数は67人）、『その他医療職（薬剤師、医療関係技師など）』は33.8%、『福祉職（社会福祉士、精神保健福祉士など）』は32.8%、『農林漁業職』28.6%（ただし実数は15人）と続きました。

「非会員」のうち、『生産労務職』『農林漁業職』の方は、身近にスキルを活用する立場や環境がないと思われる。それ以外の人は医療、福祉関係の方が多く、企業組織というよりは個人にかかわり、かつ他の公的資格による業務が主である職種の人が多いようです（図1）。

### 3. 資格・スキルをどう活用しているのか？

まず、資格の公表（質問7）をしているか、についてですが、『自分の名刺に記載、または事務所に公示、または勤務先の上司に公表（報告）している』人のうち、「会員」は69.1%ですが、「非

会員」は49.3%でした。

ただし、質問7で『職場・家族などの身近な人には個人的に言っているが、勤務先等には公にしている』と『誰にも言っていない』を選んだ人の**不公表の理由**（質問8：3つ以内選択）を見ると、両者とも似通っており、『現在の担当職務では「資格」は関係が薄いから』がトップに挙げられています。

それでは、資格を公表している「会員」「非会員」は、「資格取得により培ったスキル」をどのように活かしているのでしょうか。

**活用の程度**（質問9）をみると、「会員」は『大いに活かして「活動」している』が24.3%、『まあ活かして「活動」している』が40.7%、『ほとんど活用していない』が35.0%なのに対し、「非会員」は11.6%、36.4%、51.9%となり、『ほとんど活用していない』人が半数を超えています。

この『ほとんど活用していない』人に、その理由（質問10：3つ以内選択）を聞いていました。

「会員」も「非会員」も上位に同じ項目を同じ順位で挙げており、『「活動」をしたくても現実にその機会や場がないから』、『現在の担当職務では「活動」とは関係が薄いから』、『技能や経験が不足していて「活動」に自信がないから』など、職場でスキルを活かせる環境が十分でないことが何

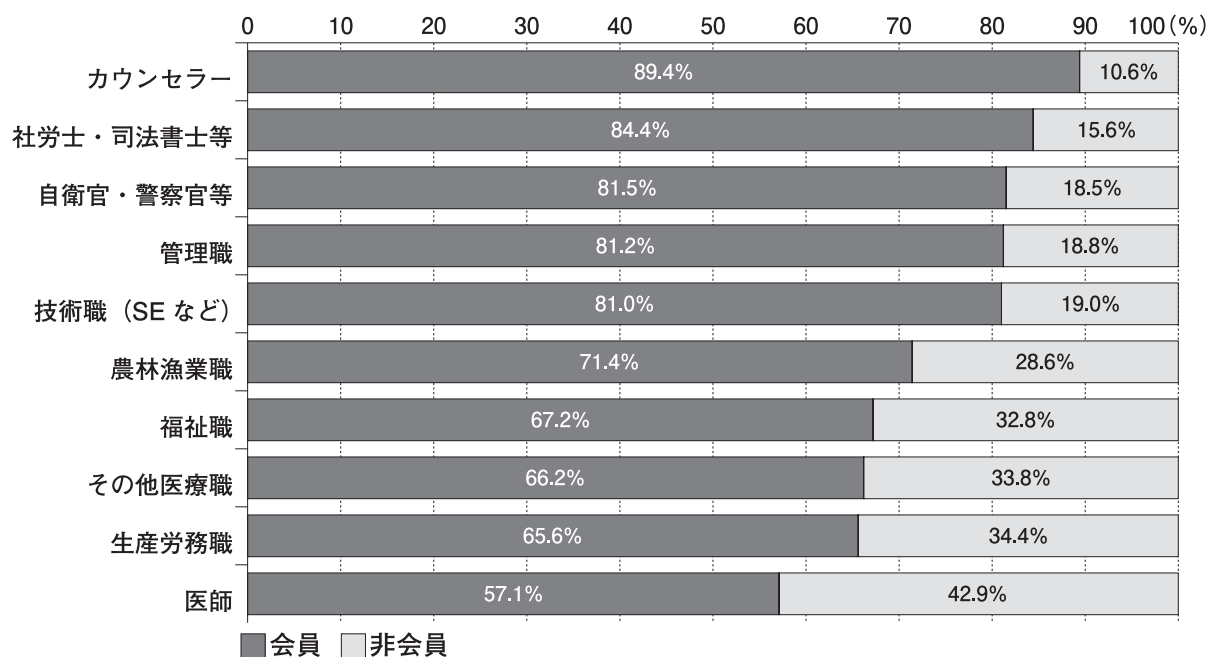


図1 職種

えます。

これらの結果から、「会員」は職務上の活動でスキルを活用しており、必要に迫られ資格の公示・会員登録をしているようです。逆に「非会員」はスキルを公的に『活用していない』ため、資格の公示・会員登録をする必要がない環境にあると思われる。

#### 4. どんな活動をしているのか？

では、活動の内容（質問13：5つ以内選択）は、「会員」と「非会員」はどのような違いがあるのでしょうか。

「会員」の選択率の多さを基準に「非会員」の選択率を比べてみると、『メンタルヘルス・ケアの個人面接』では47.4%：35.6%と「会員」の方が11.8%ほど上回っています。続いて、『自分自身の生き方の見直し、自己啓発』では34.0%：32.2%とほぼ同じですが、『キャリアカウンセリングの個人面接』は32.5%：20.4%と12.1%の差があります。

その他、『職場の同僚などとの対人関係向上』では23.5%：25.9%、『職場復帰支援』20.7%：16.6%となります。

こうしてみると、「会員」と「非会員」の活動内容はほぼ同じ割合になっていますが、「会員」は「非会員」よりも、『メンタルヘルス・ケアの

個人面接』、『キャリアカウンセリングの個人面接』、『職場復帰支援』等の専門的活動を多く実施しているようです。それに対し、「非会員」は、全体的に各回答の選択率が低く、活動が「会員」に比べて消極的である傾向が見られました（図2）。

#### 5. スキルを維持・向上するための活動は？

それでは、スキルの維持・向上のために、どのような活動（質問17：3つ以内選択）をしているのでしょうか。「会員」と「非会員」の傾向ははっきりと分かれています。

「会員」は、『協会が企画する講義、実習、演習の受講』を41.2%、『勤務先の日常業務のなかでの意識的な活動の経験』を29.7%、『他の団体が企画する講義、実習、演習の受講』を28.7%、『個人学習（自己啓発）』を26.2%、『カウンセラー、コンサルタント、ファシリテーターの経験』を16.2%と上位に挙げています。

一方「非会員」は、「会員」に比べて全般に各活動の選択率そのものが低く、しかも『とくにやっていない』が最も多く34.6%に上ります。スキル向上の動機づけは高くないようです。それ以下は『勤務先の日常業務のなかでの意識的な活動の経験』28.7%、『個人学習（自己啓発）』21.8%、『日常のプライベートな場での意識的な活動の経験』18.1%、『他の団体が企画する講義、実習、

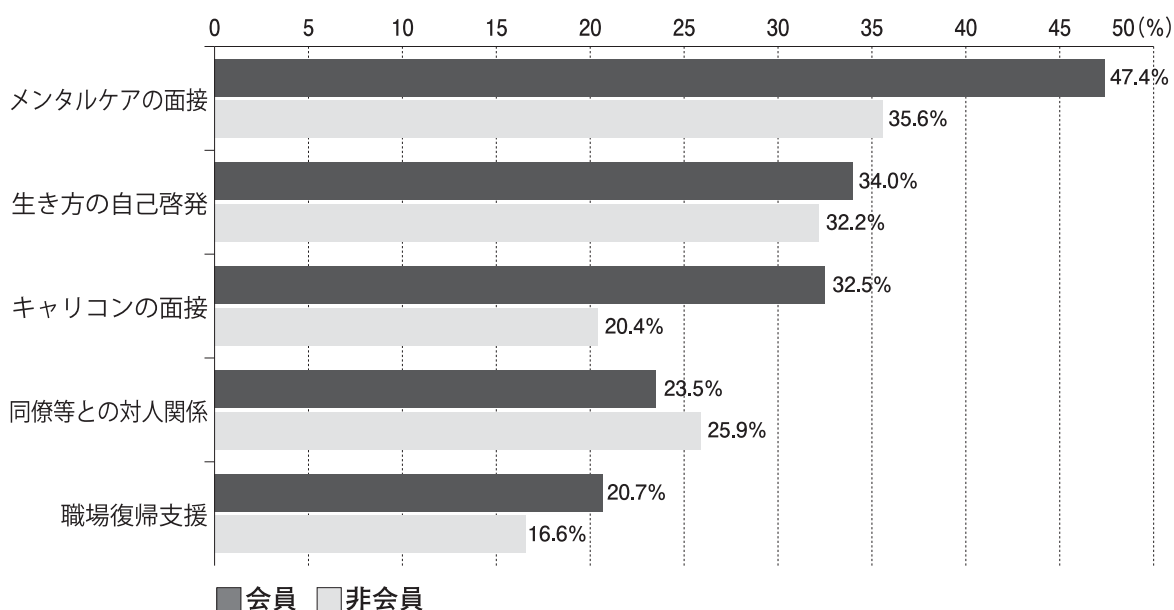


図2 活動内容

演習の受講』16.2%を挙げており、相対的に個人学習やプライベートな活動が多いことも伺えます（図3）。

## 6. 協会に対する期待は？

最後に、協会の役割（支援）に対する期待の方向（質問18）には、「会員」と「非会員」ではどのような違いがあるのでしょうか。

3つの選択肢ごとに、「会員」対「非会員」のそれぞれの選択率を見ると、『資格付与以後の活動の支援も協会に期待している』では79.6%：54.6%、『資格取得以後は自己責任で活動すべきで協会の支援は期待していない』では4.6%：6.7%、『どちらとも言えない』では15.8%：38.7%となっています。

「非会員」は、「会員」に比べて協会の支援を期待する人は相対的に少なく、かといって自己責任で頑張るわけでもなく、「どちらとも言えない…」というやや中ぶらりんな気持のようです。

それは、これまで見てきたように「非会員」はスキルを活用する環境にいる人が少なく、カウンセリング活動そのものへの動機づけの点でも高くないので、協会自体への関心も高くないことの反映と思われる。

なお、『期待している』人にその「支援」の内容（質問19：3つ以内選択）を聞いてみたところ、

「会員」と「非会員」では違いがありました。

「会員」対「非会員」のそれぞれの選択率を見ると、『スキルアップする勉強の場（研修、講座など）の質や量を充実してほしい』では40.5%：32.6%、『具体的な就職先を紹介してほしい』では38.4%：43.1%、『スキルアップする勉強の場（研修、講座など）の受講料を見直してほしい』では37.6%：27.8%、『実践活動のインターン（実習）の場を設けてほしい』では31.5%：31.4%、『実践活動ができるようになるノウハウを教えてほしい』では29.3%：33.0%、『どんな実践活動ができるのか、その目指すあり方を紹介してほしい』では29.0%：39.2%となります。

「会員」は、どちらかという勉強の場の充実への期待が高く、「非会員」は、就職先紹介、実践活動のノウハウ、あり方の教授など実利面への期待が高いようです。

（文責：服部奈保子）

今回は、「資格付与以後の活動の支援も協会に期待している人」と「資格取得以後は自己責任で活動すべきで支援は期待していない人」の比較をしてみます。

お読みになってのご意見、ご感想を下記アドレスにお寄せください。

[chousa@counselor.or.jp](mailto:chousa@counselor.or.jp)

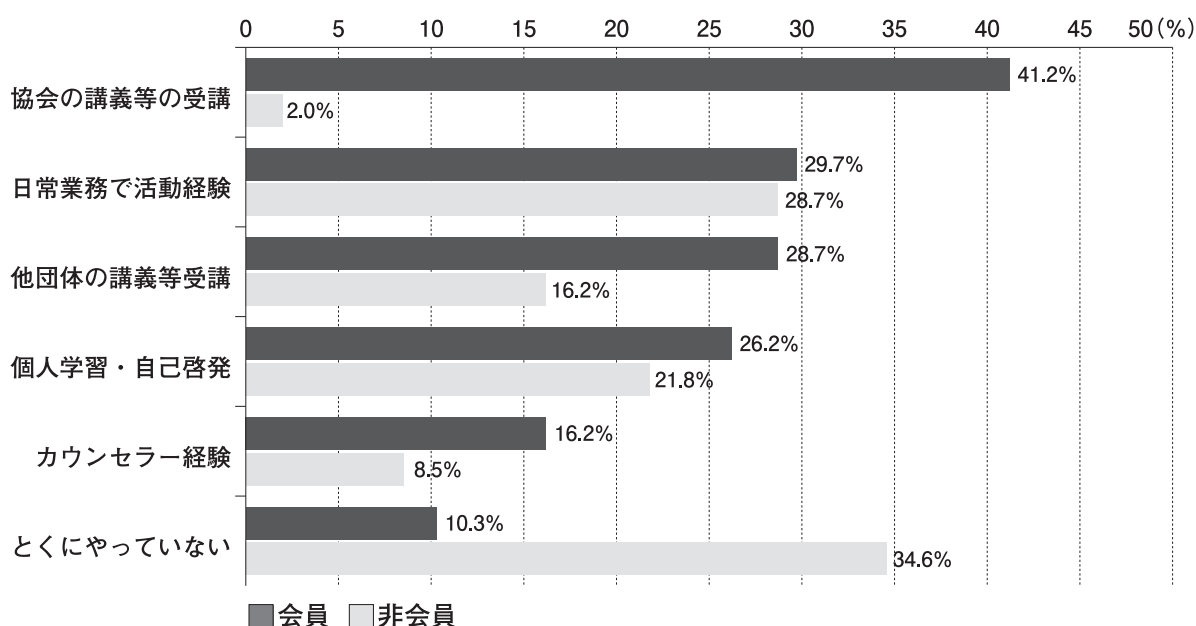


図3 スキル維持向上活動